



インパクトファクターの特徴

- ジャーナルを対象としたmetrics(計量法)
論文や個人を対象としたmetricsではない
- もともと、現在はThomson Reutersの傘下にあるISIのデータベースWeb of Scienceにジャーナルを収載する社内基準として開発

必ずしも科学的客観性を持ったmetricsではない ←

2 WILEY

Impact Factorの定義とは？

- ある年Xにおける、その連続する2年前(X-1年、X-2年)にジャーナルAにおいて出版された論文が Journal Citation Report (JCR) に 掲載されている他のジャーナル に引用された平均回数=ジャーナルAのX年IF

ジャーナルA

X-2年	X-1年	X年
<ul style="list-style-type: none"> Article Article 	<ul style="list-style-type: none"> Article Article 	<ul style="list-style-type: none"> Article Article

ジャーナルAのX-2とX-1年に出版された論文をX年に引用



JCR
掲載誌

WILEY

Impact Factorの算出方法

Digestive Endoscopy (DEN) 誌を例にして

2014年のImpact Factor

- DENにおいて2013年と2012年に出版されたすべての論文が、2014年に出版されたJCR掲載誌において引用された総数(分子)
- 2013年と2012年に DENにおいて出版されたすべての Source Items (分母)

2013年に出版された論文全体への引用数	247回	2013年に出版されたSource Items (分母)	128本
2012年に出版された論文全体への引用数	216回	2012年に出版されたSource Items (分母)	97本
引用総数	463回	Source Items (分母)総数	225本

分子: 463 / 分母: 225 = 2.05777 DEN 2014 Impact Factor = 2.058

Web of Science上における“Source Items”

Impact Factorの算出において「分母」となるarticle

- “Editorial Material”
- “Review “
- “Article”
- “Proceeding Paper”
- “Letters to the Editor”
- “Meeting Abstracts”
- “Correction”

どの論文がどのカテゴリーにあてはまるかはTR社が決める

“Review”: いわゆる一般的な総説

“Article”: Original Articles, Case Reports, Brief Communication 等

“Proceeding Paper”: 学会・研究会等で発表された内容を論文にしたもの

5

WILEY

“Source Items”以外の論文タイプ

Impact Factorの算出において「分母」とならないarticle

- “Editorial Material”
- “Review “
- “Article”
- “Proceeding Paper”
- “Letters to the Editor”
- “Meeting Abstracts”
- “Correction”

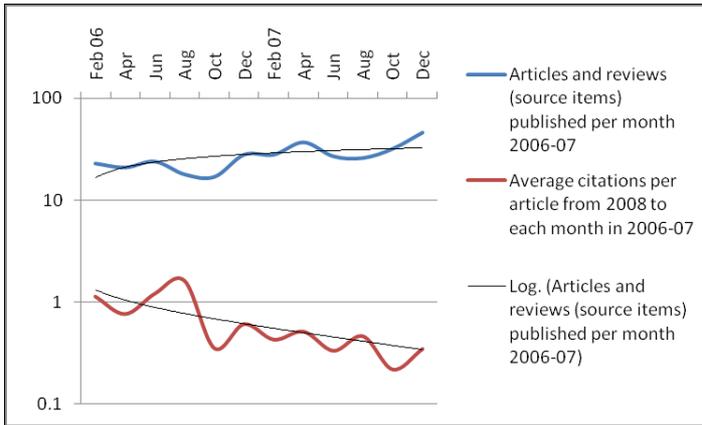
どの論文がSource ItemにあてはまるかはTR社が決める

- 学術論文の体裁をとっていない
- 抄録がない
- ページ数は2ページ未満(1ページくらい)
- 引用文献が少ない(できれば7,8以下)
- 図表もほとんどない(できれば1つまで)
- Meeting Abstractはいくつ掲載しても論文1本とされる

6

WILEY

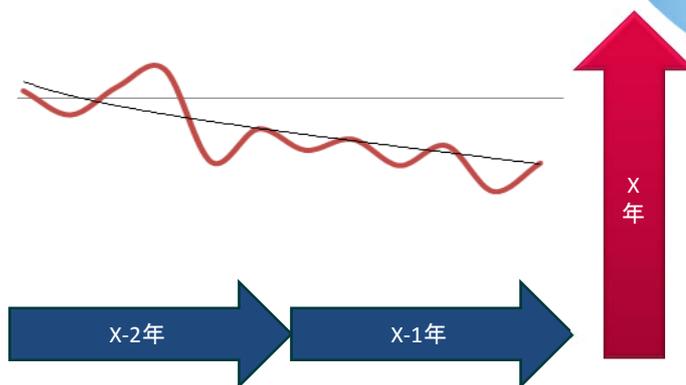
Impact Factorの引用の特徴 (1)



7

WILEY

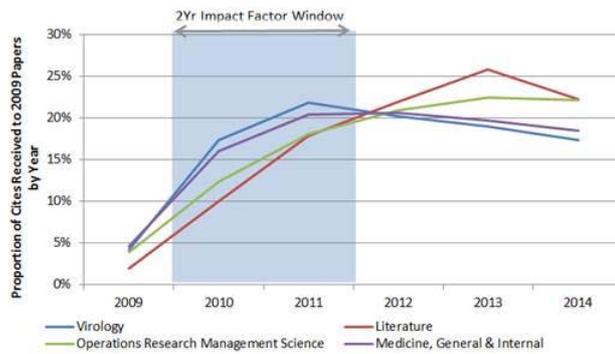
Impact Factorの引用の特徴 (2)



8

WILEY

領域によって違う引用のされ方



9

WILEY

分野や領域では異なる指標が重視される(1)

- 数学や物理等の基礎的領域:

どれだけ早く引用されたかが重要なのでImmediacy Index
がImpact Factorより重要視される傾向

$$\text{Immediacy Index (DEN): } 2014\text{年に出版された論文に対する引用数(分子)130} \\ \div 2014\text{年に出版された論文数(分母)135} = 0.963$$

- 人文・社会科学領域:

2年Impact Factorだと引用数が頂点に達する前に算出されるので5年Impact Factor (5 year Impact Factor)の方が重要とされる

$$\text{5 year Impact Factor: 対象となる被引用期間をx-2年ではなく、x-5年とする} \\ \text{5 year IF (DEN): } 5\text{年の引用数 } 970\text{回} \div 5\text{年間のSource Item } 491 = 1.976$$

10

WILEY

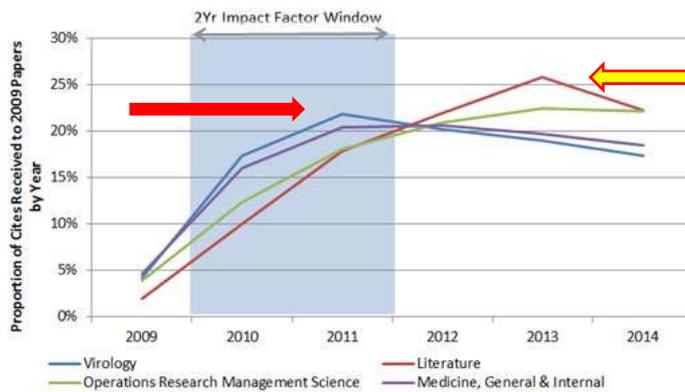
分野や領域では異なる指標が重視される(2)

- 生物・医学領域:
2年Impact Factor (2year Impact Factor) はこの分野では引用の傾向とも矛盾がないので生物・医学系のジャーナルで最も重要視される傾向にある

11

WILEY

生物医学領域はIF, 人文・社会科学は5yIFの方が実態を反映しやすい

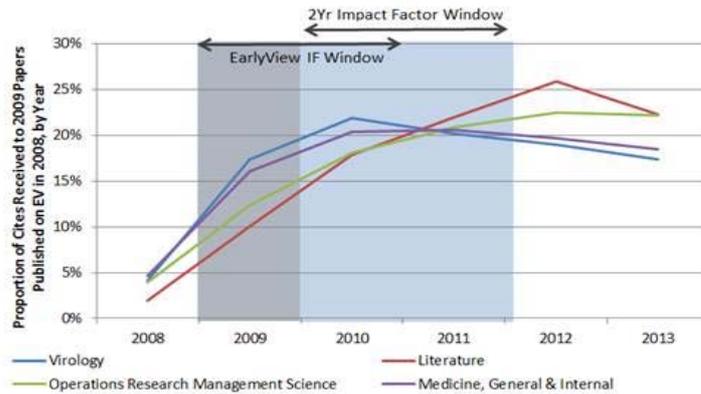


12

WILEY

論文単位のオンライン早期出版とIF

EarlyView, Online First等々



13

WILEY

論文単位のオンライン早期出版とIF (2)

長期間、論文をEarlyViewで出版することのリスク

- EarlyView等は原則としては号に収載されるまでに待つ著者に対するサービスとして行われる
- 生命科学・医科学では論文出版後6か月、7か月後から引用され始める

EarlyViewで出版されている間に、EarlyView等のまま(号には収載されず)引用された場合、号に収載されるまで6か月以上出版される論文の時点をTR社で合算される。オンラインで出版した論文は6か月前後を目途に号に収載することが理想的

14

WILEY

弊社における英文学術誌のImpact Factor

(2014年 Impact Factor) Health Sciences

雑誌名	学会名	Impact Factor
<u>Cancer Science</u>	日本癌学会	3.523
<u>Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences</u>	日本肝胆膵外科学会	2.994
<u>Hepatology Research</u>	日本肝臓学会	2.735
<u>International Journal of Urology</u>	日本泌尿器科学会	2.409
<u>Journal of Dermatology</u>	日本皮膚科学会	2.252
<u>Geriatrics & Gerontology International</u>	日本老年医学会	2.188
<u>Digestive Endoscopy</u>	日本消化器内視鏡学会	2.058
<u>Journal of Diabetes Investigation</u>	アジア糖尿病学会	1.825
<u>Therapeutic Apheresis and Dialysis</u>	日本アフェリシス学会・日本透析医学会	1.705
<u>Pathology International</u>	日本病理学会	1.691
<u>Neuropathology</u>	日本神経病理学会	1.65
<u>Psychiatry and Clinical Neurosciences</u>	日本精神神経学会	1.634
<u>Congenital Anomalies</u>	日本先天異常学会	1.083
<u>Journal of Obstetrics and Gynaecology Research</u>	日本産婦人科学会	1.072
<u>Nursing and Health Sciences</u>	山口大学医学部保健学科	1.042
<u>Psychogeriatrics</u>	日本老年精神医学会	0.958

15

WILEY

(2014年 Impact Factor) Life Sciences, Social Sciences and Humanities

雑誌名	学会名	Impact Factor
<u>Genes to Cells</u>	日本分子生物学会	2.805
<u>Developmental, Growth and Differentiation</u>	日本発生生物学会	2.420
<u>Phycological Research</u>	日本藻類学会	1.273
<u>Plant Species Biology</u>	種生物学会	1.271
<u>Microbiology & Immunology</u>	日本細菌学会、日本ウイルス学会、 日本生体防御学会	1.242
<u>Resource Geology</u>	日本地質資源学会	1.151
<u>Island Arc</u>	日本地質学会ほか	1.148
<u>Entomological Science</u>	日本昆虫学会	1.065
<u>Animal Science Journal</u>	日本畜産学会	0.960
<u>Grassland Science</u>	日本草地学会	0.627
<u>Weed Biology & Management</u>	日本雑草学会	0.537
<u>Entomological Research</u>	韓国昆虫学会	0.398
<u>Asian Economic Policy Review</u>	日本経済研究センター	0.636
<u>Asian Economic Journal</u>	東アジア経済学会	0.541
<u>Japanese Psychological Research</u>	日本心理学会	0.500
<u>Japanese Economic Review</u>	日本経済学会	0.351
<u>Developing Economies</u>	日本貿易振興機構 アジア経済	0.300
<u>International Journal of Economic Theory</u>	International Association for Economic Theory	0.135

16

WILEY

ご質問はございましたら、
お答えいたします。

WILEY 学会英文学術誌出版部
担当：八幡智雄

〒112-0002
東京都文京区 小石川1-28-1
フロンティア小石川ビル4階
Phone: 03-3830-1251(直通)
Fax: 03-5689-7276
email: tyawata@wiley.com